

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		04 02 03	中期総合計画主要施策番号		3-06、5-06	担当課	部・課	社会部地域福祉課		
事業名		宅幼老所支援事業					内線	2329		
							E-mail	chiiki-fukushi@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・小規模で家庭的な雰囲気を持つ宅幼老所において、高齢者や障害者がきめ細やかなケアを受けることができる地域社会を実現する。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] ・家庭的な雰囲気のもとで、きめ細かなサービスを提供する宅幼老所など小規模福祉施設の重要性が高まっているが、介護保険法及び障害者自立支援法の制度(以下「介護保険制度」という。)だけでは、一人ひとりのニーズに応じたきめ細かなサービスを行い、地域の福祉拠点としての役割を十分に果たすことが困難である。 [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・家庭的な雰囲気をもつ宅幼老所の整備については、認知症対応型通所介護などの地域密着型サービスを除き、国の助成対象とはならない。 ・地域ニーズに応じたきめ細かなサービスのうち、緊急時の一時宿泊は、介護保険制度等の対象とならない。 ・障害者が利用する生活拠点施設のうち、利用者を知的・精神障害者に限定しないなどの理由により、障害者自立支援法の生活介護給付の対象とはならない事業所がある。 [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・国の助成対象とならない宅幼老所の施設整備に対して助成する必要がある。 ・介護保険制度等の対象とならない緊急時の一時宿泊に対して助成する必要がある。 ・障害者自立支援法の対象とならない、地域共生型生活ホームに対する運営費を助成する必要がある。								
		事業内容	1 事業主体 市町村 2 事業内容(1)宅幼老所等施設整備事業(【県】2/3、【市町村】1/3)限度額7,500千円 (2)宅幼老所など通所施設における緊急宿泊支援事業(【県】1/2、【市町村】1/2)4,000円/日(一人当たり年36回を限度) (3)地域共生型生活ホーム等への運営費助成事業(【県】1/2、【市町村】1/2)200,800円/月							
			実施期間	H14 ~		根拠法令等 宅幼老所支援事業等補助金交付要綱、高齢者プラン				
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
・20年度までに概ね小学校設置区域に1か所(全県で400か所)をめどに宅幼老所が設置され、地域に住む高齢者や障害者等のケアを実施する。(高齢者プランにおける20年度宅幼老所整備目標数400か所)		・19年度までに362か所整備済みであり、20年度までに概ね400か所の整備を目標とする。			・7か所の施設整備を行い、全体で381か所が整備され、高齢者プランの整備目標は概ね達成された。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下			
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	44,199	46,900		国庫・県単	県単		
	決 算 額 (B)		千円	43,750	46,043		実施方法	補助		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	43,750	46,043		歳出節別内訳等			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	1.20	1.20	1.20	(単位: 千円)	・補助金 46,043		
	概算人件費 (C)		千円	8,568	8,579	8,579				
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	52,318	54,622	8,579					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	施設整備補助実績(累計)		箇所	152	159	163	・運営費補助 7か所 ・緊急宿泊補助 57か所			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・市町村の施設整備に関する要望件数はここ数年間は横ばいである。 ・例年、決算時に不用額を生じていることから部内の県単事業補助金と統合を図ることで、市町村が各々の実情に応じて有効に活用できるよう21年度から整備する。 ・近年の施設における火災等の事例を踏まえた消防法施行令の改正により、他の公的助成の対象とならない事業所に対する防火機能強化について検討する余地がある。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		・20年度末までに381か所が整備され高齢者プランの達成目標は概ね達成されており、高齢者に対するデイサービス事業だけでなく、地域の多様なニーズに応じた緊急時一時宿泊等を実施し、地域ケアの拠点として一定の役割を果たしていることから、概ね期待どおりの成果が得られている。 ・今後は、地域ケアの拠点としての機能をより充実させるため、サービスの質の向上を図っていく必要がある。 ・当該事業は21年度から「地域福祉総合助成金交付事業」として市町村が各々の実情に応じて補助金を有効活用できるよう社会部における他の県単独事業と統合補助金化を図ったが、引き続き、住み慣れた地域で暮らし続けるよう市町村等の意見・実情に応じた補助となるよう検討していく。								